

### 即位の礼



発行者兼編集者  
 鵜戸神宮社務所  
 印刷所  
 西日本印刷



## 年頭の御挨拶

宮司 佐師 朝規

平成二年（皇紀二千六百五十年）の新春を迎えるにあたり、謹んで御皇室の弥栄を壽ぎ、国家の安泰と氏子崇敬者皆々様の御多幸を衷心より御祈念申し上げます。今秋、十一月には御大典が執り行われます。御大典とは、即位の礼、大嘗祭、大饗の諸儀式の総称です。

即位の礼は、天皇が御位につかれたことを国の内外に対して宣言される国家的儀式であるとともに、内外の賓客から祝意を受けられる盛大な儀式であります。

大嘗祭は、即位儀礼の中で最も重要な祭儀で、即ち天皇が即位後初めて行なわれる新嘗祭のことであり、一生一度の重儀とされてき

ました。此の儀は、天皇が初めてその年に穫れた稲や穀物を皇祖天照大神を始め、天地の神々に捧げられ、御自らさきこし召されることにより、天照大神の靈威を身につけられることです。そして、陛下が新穀を毎年さきこし召されることにより、靈威の更新をはかられるのが新嘗祭であり、この大嘗祭と新嘗祭の表現が区別されたのは、天武天皇の御代で今から約一、三〇〇年前とされています。

新嘗祭は、宮中の神嘉殿にて行なわれますが、大嘗祭は、日本の国土を代表する悠紀殿、主基殿を中心とする大嘗宮が造営され、厳肅に行なわれます。これらの御殿は、木の皮をつけたままの黒木造りで、屋根は萱ぶき、床は竹をもって組むというまことに太古のままの素朴な建物であるということが出来るでしょう。

大饗は、大嘗祭の直会といえるもので、大嘗祭で供えられた神酒



大嘗宮御儀の図 一 廻立殿より悠紀殿へ

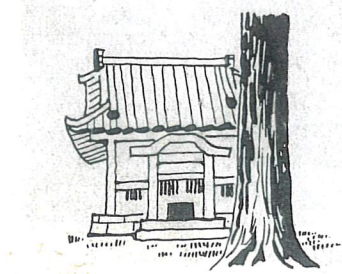
# 大嘗祭

権祢宜 永友謙 二

最近のさまざまな書物、新聞等に大嘗祭についての歴史、儀式内容が書かれて

核をなす大嘗祭について」と題し掲載致しました。そして、この大嘗祭が今年、十一月に厳肅に齋行されることになりました。政府におきましては、森山官房長官を委員長として即位の礼準備委員会を発足させて、本格的な検討に入っております。しかし、一部に政教分離を楯に大嘗祭が憲法の禁止する宗教的活動に当たるので問題であるとの議論があります。憲法では、国及びその機関は特定の宗教を援助促進するか、あるいは逆に圧迫干渉するような宗教行為を指すだけで、日本の伝統文化である皇位継承儀礼の大嘗祭がこれに該当しないのは明らかであり、当然のことです。また憲法では、天皇を日本国及び日本国民統合の象徴と定め、皇位は世襲と定めてあります。大嘗祭は皇位とともに伝わる由緒ある儀式であり、古来より国家的儀式として今日迄継承されてきたものでありますので、何ら国事行為として問題はないはずで、むしろこの重儀を後世まで伝える責任

があると思うのです。大嘗祭は、天皇が皇祖天照大神を始め日本の神々とともに、その年の新穀の御飯をお召し上り、天皇としての命と御資格を得られてきた、宮中祭祀の中でも重大な大祀であります。我々日本人はお米を主食とし、稲の豊かな稔りと収穫を祈り、稲と共に社会的、国民的に栄えてきた瑞穂の国であります。その豊かな稔りと、国の繁栄や安泰を確保されてきましたのが天皇であります。神代、皇室の御祖先である天照大神が、高天原において稲を育てられ、瓊瓊杵尊が高天原より降臨される際、「斎庭の穂をもって、また吾が児にまかせまつるべし」と勅されて、稲穂をお授けにられました。以来天皇は、天照大神の御手振りをお受けに継承されておられるのです。一昨年、病床の昭和天皇が御見舞にいられた宮内庁長官に、「雨が続いているが、稲の方はどうか」とお尋ねになられた話は、只々感銘するものであります。御病床にあられても瑞穂の



大嘗宮

等を参列者が戴き、天皇の即位を御祝する儀式の事です。この一連の諸儀式は、皇位継承に欠かすことの出来ない、先へのべた如く今から一、三〇〇年前に溯る重要な皇室の伝統儀式であるとともに、日本文化の根幹をなしているといえましょう。此の平成の御大典が、皇室の伝統により国事行為として行なわれ、世界に類を見ない儀式として後世に伝えられることを切望致します。

# 新嘗祭齋行

十一月二十三日、この日は生憎の曇り空ではあったが午前十一時より新嘗祭が、責任役員、氏子崇敬者総代をはじめ、官公庁、各地区々々、敬神婦人会等約百五十名の参列のもと、宮司以下祭員の奉仕によって厳肅に齋行された。今年穫れた稲や穀物を神々に捧げ、その恵みに感謝するこの祭には、日南市をはじめ南那珂郡内の各地区から多数の献米、献酒、献菓子などが奉納され、一層祭典の雰囲気を感じ上げていた。又、今年も鶺鴒小学校四年生によって、こどもかぐらが奉納された。尚、献上者、こどもかぐら奉仕者は次の通りである。◎献米奉納者 日南市殿所地区、平山地区、甲東地区、大浦地区、益安地区、乙東地区、松永地区、酒谷大谷一同、北郷町中央



こどもかぐら奉仕者

地区、坂元地区、内之田地区、伊十川地区、酒谷秋山地区

◎献備品奉納者 京屋酒造、桜乃峰酒造、松露酒造、寿海酒造、井上酒造、古澤酒造、松乃霧酒造、小玉酒造、谷口酒造、宮崎県酒造、谷口酒造、フンドーキン醤油、谷口醸造、安藤醤油、サンキュー堂、とらや菓子店、福田菓子店、とおる屋菓子店、杵屋菓子店、横山菓子舗、竹井菓子

店、永井勝栄堂、西田菓子舗、飢肥宮林署、だいきち鶺鴒中学校、鶺鴒小学校、潮小学校、小目井地区、津田酒店、農協鶺鴒支所、松浦剛士、加藤俊、徳永前統、鶺鴒水産、森水産

◎初穂料奉納者 皆本幹雄、渡辺三郎、前園製菓、押川眞須子、川田商店、民宿南光、宮崎太陽銀行、鶺鴒郵便局、日南郵便局、徳留精二、山村昇、徳永前統、荒木勝彦、樺島和子、延愛子、持永和見、森竜孝、鶺鴒神宮敬神婦人会、吹毛井地区、宮浦地区、小吹毛井地区、横通地区、上平野地区

◎こどもかぐら奉仕者 (神の舞) 関屋亜里沙、(献穀の舞) 増竹崇、内田美穂、(えびすの舞) 近藤美香、佐伯幸恵、(鈴の舞) 泉里奈、村本美佳 (順不同)

国の天皇として、国の泰平と稲の豊かな稔りを祈られておられ、そしてこの祈りは今上陛下にも継承せられて祈りであり、私達の住む日本は、四季に恵まれた自然の恩恵を受け、長い歴史と伝統文化を守ってきた島国であり、皇室を尊敬し繁栄してきた民族であります。象徴である天皇御自ら執り行なわれる大嘗祭は、日本国の財産とし古代にのっとり齋行されるべきであります。そして全国各地で奉祝行事、記念事業等を行います。今上陛下の御即位をお祝い申し上げ、今年皇紀二千六百五十年がさらに充実した年となるよう邁進してまいります。

# 研修旅行を終えて

責任役員 関屋武義

今回の研修旅行は、日本統治五十年、国民政府四十年の台湾を見ることに一番興味があった。研修は、宮司様、職員一名、責任役員六名の計八名で、九月十日から十四日（内一日は福岡泊）までの四泊五日で行なわれ、滞在期間は四日間ではあったが、その印象は治安が維持されており、日本と何等変らぬ活気ある生活



孔子廟にて

を見る事ができたように思う。皮相な見解ではあるが、天安門事件に於ける中国との相異をしみじみと感じさせられた次第であった。又、中華民国の国父、孫文が掲げた三民主義即ち民主、民権、民生が着々とその実を結びつつあることにも、共産国中国との差を如実に見ることが出来た。市街の三年前までの交通形態は、オートバイが所狭しと走っていたとの高橋役員の説明に比べ、現在は自動車（中古）が主体で、日本の交通形態と変らないのも一驚であり、面白いことにその殆んどが一ヶ月位洗車したことのないようなバス、乗用車、タクシーであることは国民性なのかなと私達の話題の中心であった。街の至る処に数多くの寺廟があり、道教を中心とした国民の信仰の厚さを感じ、會ての日本総督府が、台湾政府の総統府として現存していることには感慨一入の思いであった。又、蒋介石が軍艦二隻で運んだものは、寶石財宝よりも中国古来の何万点にも及ぶ文化遺産であって、これらが陳列して



衛兵交替の儀式

ある国立博物館故宮を見学したときに、中国五千年の古い文化が古への奈良、京都の技法に見出され、文化が中国より渡来したものであることを如実に物語っていると感じた。孫文、蒋介石の記念館殉国烈士を祀る廟は凡て国営であり陸軍、海軍、陸戦隊、航空隊の軍人を以て之を守り、その一時間毎の衛兵交替の儀式は、洗練された一挙手一投足が、英国のバッキンガム宮殿の衛兵より端正厳肅さを感じ、準戦下台湾の国防の一端を垣間みたように思う。そして日の丸君ケ代、靖国神社正式参拝さえ異論の出る今日の日本の不甲斐なきを嘆かわしく感じたしだいである。末筆ではあるが、台湾の中国料理を存分に堪能できたことを心から感謝し終わりとしたい。

# 所感

主典 丹生貴士

近年、国や企業の政策によって、週休二日制、長期の休暇等が指導されている。正月やゴールデンウィークなど長期休暇を利用して年間四百万を超す人々が海外を訪れ、その傾向は年々増加している。こうした国内観光離れに歯止めをかけるよう、政府によるリゾート開発構想が打ち出された。その開発構想の中に当神宮が鎮座する日南海岸が指定され、九十年代、二十一世紀に向けてのリゾート観光保養地として開発が進められている。

戦後の高度成長によって国家の経済も豊かに成り、昭和四十年代から五十年代に至る迄日南海岸は新婚旅行のメッカとして全国的に知られ、当神宮への参拝者数も百数十万を超える人々が訪れ、日南海岸は宮崎の観光の発祥とされた。当神宮は、日南海岸の鵜戸崎と称する岬の先端の日向灘に直面する神秘的な洞窟

（主祭神鵜草葺不合尊の産殿の址と伝えられる霊地に鎮座している。現在は参道の整備等により参拝が容易であるが、以前は陸上からも海上からも人間が立ち入るのも困難であったにちがいない。そして、人々はその中に自然界に位置する神の社としての荘厳さを見出したのだと思う。一時は西の高野山と称せられ、両部神道の一大道場として多くの修験道（山伏）の修行の地として信仰され、盛観を極めていた。

現在の参拝形式と新婚ブーム当時を比較してみると現在は大型バスによる参拝が大半を占めているが、自家用車やタクシーでの参拝の割合も増えつつあり、時間に左右されず当神宮の四季折々の景観や神仏混合時代の残影を考察する姿も見られる。中には専門的な知識を持って参拝する人も多く、自分の非才さに反省させられる事もある。これに



対し新婚ブームの時代は、観光バスによる駆け足的な旅行が大半で、数多くの観光地を巡る事を目的とした言わば日本人特有の性格である「せっかち」な旅行で通り一遍的なものであったと思う。現在も、この通り一遍的な参拝が見受けられない訳ではないが、如何にすればより多くの参拝者の心を引きつけられるのかを考え、「参拝して良かった」とか「心のよりどころと成った」とか言われるようなお宮となる様、日々神明に奉仕していかなければならないと思う今日此頃である。

# 鵜戸山玄深記 (II)

伏テ是ヲ案ルニ當山之石窟阿字寂靜之神殿ヨリ鏡字智光之神験ヲ現ハシテ諸人之願樂ヲ成就シ玉フ事ハ皆是興隆佛法法令久住之増上力ナリ此法味之妙徳ニ依テ日ニ神威ヲ増シ三世常恒二人天ヲ利益シ玉フ依テ之樓原山御神女之託宣ニ初夜後夜之御法之船乃浮フ間ニ我モ乘リ得テ神路タダサント詠シ玉ヘリ謂上ニモ重々是ヲ陳ル如ク當山ハ法尔自然ト金胎曼茶羅之靈地也仍テ太古ノ神聖皆此山ニ住玉フナルヘシ例シテ是ヲ云ハハ弘法太師之誓ヒニ日高野山金剛峰寺ハ前佛ノ淨土後佛ノ化土ナリ諸佛常ニ住シテ妙法ヲ説キ神明擁護シテ邪正之人ヲ撰ブ重障ノ凡夫ハ住スル事アタハス是故ニ毒獸ナツケザルニ自馴テ煩惱即菩提之理ヲ示シ高山登ラスシテ至ル生死即涅槃ナルコトヲ顯ハス一度歩ミヲ投スル者ハ無始ノ罪障ヲ除キ假ニモ結縁スル者ハ必ス龍花ノ果ヲ受トゴウ多院大覺寺法皇之日ク此高野山ハ法尔トシテ金胎曼茶羅峯ナルコトヲ去レハ政取之事也

謹賀新年

ヨリ大塔ニ至ル迄ノ百八十基之卒都婆ト云ハ  
 則是胎藏曼荼羅之百八十尊ヲ顯ハセリ仍テ一  
 度登ル者ハ本有之無盡莊嚴ヲ開發シテ直ニ曼荼  
 羅ノ聖衆ト成ルト云事高祖大師之記文ニ見タ  
 リト云案スルニ當山之取成自然ト彼高野山ニ  
 等シテ其功德亦同シカラン依レテ之當山ニ一度詣  
 テテ靈地ヲ踏結縁スル者ハ正ニ諸神諸佛之化度  
 ニ預リ或ハ亦此山ニ住シテ疑ヲ斷信ヲ生ス僧  
 俗ハ必ス當來佛國土ニ往生シテ佛果ニ至ル事  
 ヲ得ン去レハ釋迦如來出世之時モ地神之御大  
 カミテ此石窟ニ住ミ玉ハ彌勒出世之時モ亦皇  
 御神達此石窟ニ住給ナラン如何トナレハ前佛  
 後佛之化儀全ク同キカ故ニナリ其前佛後佛之  
 化儀同キ事ハ法花経等之化儀如シ

- ① 興隆 — おこつて盛んになること。勢いがさかんに  
 なること。
- ② 増上 — すぐれている。
- ③ 法味 — 仏教のおもむき。
- ④ 妙徳 — 至りてたへなる道、すぐれたる徳。
- ⑤ 三世 — 過去・現在・未来。
- ⑥ 初夜後夜 — 午後八時頃と午前四時頃。
- ⑦ 金胎 — 金剛界と胎藏界。
- ⑧ 曼荼羅 — 仏がさとりを開いた境地。  
繪本山として創建。
- ⑨ 高野山金剛峰寺 — 幽寂の地で八二六年、空海が真言宗の  
繪本山として創建。
- ⑩ 前佛 — 釈迦。
- ⑪ 後佛 — 弥勒。
- ⑫ 妙法 — すぐれた仏の道、すぐれた仏法。
- ⑬ 重障 — 仏果を求めるのに重い障害となる罪業。
- ⑭ 凡夫 — 煩惱に束縛されて迷っている人。
- ⑮ 煩惱即菩提 — 相反する煩惱と菩提(悟り)どが、究極に  
おいては一つであること。
- ⑯ 涅槃 — 釈迦の入滅。
- ⑰ 罪障 — 極楽に行くさまたげとなる悪行。
- ⑱ 結縁 — 仏道に入る縁を結ぶこと。
- ⑲ 龍花 — 弥勒菩薩がその下で成道するという樹。
- ⑳ 法皇 — 仏門に入った太上天皇(天皇讓位後の称号)  
の五層に築かれ、五重塔・五輪塔がそれであ  
 る。
- ㉑ 卒都婆 — 仏舍利を安置する仏塔で地・水・火・風・空  
の五層に築かれ、五重塔・五輪塔がそれであ  
 る。
- ㉒ 胎藏曼荼羅 — 胎藏界諸仏の徳を象徴したもの。  
本来有すること。固有
- ㉓ 本有 — 本来有すること。固有
- ㉔ 莊嚴 — 衣服・宮殿等を立派に飾りたてておごそか。  
極楽浄土の諸菩薩。
- ㉕ 聖衆 — 一宗一派を開いた僧を敬つていう語。
- ㉖ 高祖 — 弘法大師。
- ㉗ 大師 — 教化済度の略。衆生を教え導いて救うこと。  
僧侶と俗人。
- ㉘ 化度 — 僧侶と俗人。
- ㉙ 僧俗 — 衆生を教導・感化する形式。仕方  
來世。
- ㉚ 當來 — 衆生を教導・感化する形式。仕方
- ㉛ 化儀 — 衆生を教導・感化する形式。仕方  
一般に妙法蓮華経の略称。

- 宮司 三朝
- 権宜 宜治
- 齋典 吉治
- 主典 史規
- 齋女 謙二
- 巫子 東二
- 守衛 伊藤
- 掃除婦 伊藤
- 宮川 伊藤
- 水部 伊藤
- 川元 伊藤
- 宮本 伊藤
- 川瀬 伊藤
- 鬼東 伊藤
- 浜元 伊藤
- 湯浅 伊藤
- 平好 伊藤
- 育修 伊藤
- 杉時 伊藤
- 川原 伊藤
- 藤畑 伊藤
- 井浦 伊藤
- 鈴木 伊藤
- 嶋直 伊藤
- 古み 伊藤
- 谷ル 伊藤
- 佐藤 伊藤
- 岩切 伊藤
- 阿部 伊藤
- 田部 伊藤
- 平代 伊藤
- 沢賢 伊藤
- 丹生 伊藤
- 伊藤 伊藤
- 中野 伊藤
- 佐藤 伊藤
- 永藤 伊藤
- 谷友 伊藤
- 三口 伊藤
- 佐輪 伊藤
- 朝吉 伊藤

社務日誌抄

七月四日 静岡県神社庁参事 青島清三郎氏  
 焼津神社宮司鈴木泰司氏他27名 参拝

七月五日 日南地区産業安全祈願祭

七月八日〜九日 高良大社 宮司竹間宗磨氏 就任を祝う会出席の為宮司福岡へ出向

七月十二日 東京都神社庁 葛飾区支部長香山邦英氏外9名 参拝

七月二十三日〜八月一日 日南市姉妹都市友好訪問の為、宮司、佐藤権祐 宜米国ポーツマズ市へ出向

八月三日 地主神社宮司中川平氏参拝

八月八日 北郷町図書館竣工開館祝賀会参列の為宮司出向

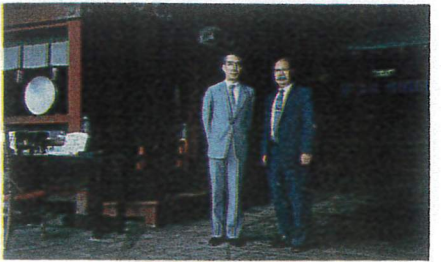


地主神社宮司中川平氏

八月二十日〜二十三日 京都藤原健氏舞楽講習の為来宮

八月二十七日 宮崎神宮宮司黒岩龍彦氏、国学院大学教授 上田賢治氏他1名参拝

八月二十八日 三重県府中神社宮司渡辺勉氏外25名参拝



舞楽講師藤原健氏

九月一日〜二日 御大典講演師研修会の為宮司本社本庁へ出向

九月七日 県神社庁総会出席の為宮司、役員、総代、職員 県神社庁へ出向

九月十日〜十四日 責任役員研修旅行

九月二十日 熊本国税局総務部長岡子善信氏他1名参拝

十月十三日 氏子総代会

十月十五日 本社本庁評議員横溝利明氏他5名参拝

十月十八日 日南RC職場訪問例会

宮崎神宮敬神婦人会21名参拝

十月十九日〜二十日 五神宮宮司会の為宮司宮崎神宮へ出向

十月二十三日 福井県剣神社役員総代23名 参拝

十月二十四日 明治神宮宜千葉博男氏他5名参拝

十月二十五日 東京都平河天満宮宮司植田敏雄氏他31名参拝

十月二十五日 宮内庁書陵部桃山陵墓監区事務所副所長寺田喜彦氏他2名 参拝

十月二十九日 樺原神宮宜伊勢美登氏他5名参拝

十月三十日 責任役員会

十月三十一日 神奈川県菅生神社宮司小泉直穂氏37名参拝

十一月三日 明治祭

十一月七日〜八日 五神宮職員会の為宮司、永友、佐藤、伊東権祐宜宮崎神宮へ出向

十二月二十三日 新嘗祭

十二月二十三日 天長祭

十二月二十七日 媒払祭

十二月三十一日 大祓式、除夜祭



明治神宮千葉祢宜

# 就任の御挨拶



鵜戸神宮敬神婦人会

会長 冨澤 節子

鵜戸神宮敬神婦人会は、昭和三十年六月に発足して以来三十有余年の年月がたちました。その間、前会長様、前々会長様を中心に敬神の心をもって、いろいろな活動をされ今日に至っております。

この度、前会長の高齢による勇退に伴い後任に不肖私が会のお世話をさせていただきますことになりました。その力量はないに等しく経験もありませんので会員の皆様を初め関係各位の方々に御迷惑をかけるかと思いますが、私にできる範囲で役員の方々と共にありがたく精一杯のお世話をさせていただきます。現在この世相は、国際社会では、経済大国で安全で安定した国だと言われている

反面、あまりにも経済優先で人々の心が希薄なものになっていくように思えます。先日は都会で殺伐とした事件が起きて誰も被害者に手をさしのべることがなく、また、さしのべたがために殺された大学生もいました。このような荒んだ心は一体どこから起こるのでしよう。自由主義と利己主義を同義語とはき違え、他人の考えや行動を理解せず自分にとって有利か、自分は安泰かなどの我がままな心のみが先立って他人の立ち場など見えなくなるとやりきれません。まず自分が他人に迷惑をかけず自分を向上させる努力をし、楽しく充実した生活を送ることが健康で明るい家庭や社会の一員となると思えます。むずかし

いかもかもしれませんが物事の見方考え方に善良な態度と心を磨くことが大切だと信じます。

私共婦人は、先人の教えを今一度振り返り神の恵みと祖先の恩に感謝し、真の心をもって微力ではありますが

すが社会に奉仕できるように心がけたいと存じます。そして子や孫達、子孫の繁栄を希うためにも各人が相互の関係を自覚し、良き母親、良き主婦、良き姉妹として生きていく努力を致します。

が社会に奉仕できるように心がけたいと存じます。そして子や孫達、子孫の繁栄を希うためにも各人が相互の関係を自覚し、良き母親、良き主婦、良き姉妹として生きていく努力を致します。

## 姉妹都市ポーツマス親善訪問

ポーツマス市は日露戦争溝和条約締結の地で、日南市の時の外交官小村寿太郎侯のゆかりの地で姉妹提携を結んで居る市で有る。

### 雑詠

日の丸の小旗ふりつゝ、市人の歓迎の声心にひびく  
にこやかに笑をたゝへて握手する見るも楽しき使節の人々  
訪問の記念の植樹残さむと暑さ中に掘る米国の土  
彼の国と我が国人もにこやかに笑を浮べて植樹なしたり  
何時か亦まみゆる時を願いつゝ、別れを惜しむ顔と顔顔



ポーツマス市長他

## 編集後記

昨年七月四日から「日本の皇位継承儀礼の中核をなす大嘗祭について」という印刷物を社頭にて参拝者に自由にお取りいただいていたのですが約三万五千枚も出すことができ、私たちも驚いています。無論、全員の方々に理解してもらったとは思いませんが、一人でも多くの方々に、今年十一月に大嘗祭が行なわれるという事が分っていただけたら幸いと思っております。先日参拝者の方から「家に帰ってから読ませていただき、大変よく分かりました。これからも頑張ってください」という電話をいただき、これだけでも出版した甲斐があったと大変うれしく思った次第です。

これからも微力ではありますが、より一層御大典に向けて活動を行っていきたいと思っておりますので、皆様方の御理解と御協力をよろしくお願い致します。

(中武)